

ぶどうの発芽～新梢伸長期の管理

発芽期を迎えると日に日に新梢が伸び、芽かき、摘穂、誘引などの作業が必要です。展葉7枚期頃までは前年に蓄えられた貯蔵養分での生育になりますが、限られた養分を無駄なく使えるよう、早め早めの管理を心がけましょう。

1 芽かき

- ・ 不要な芽を除去することで、必要な新梢に養分を集中させます。また、新梢勢力や生育進度を揃えることで、後に続く作業の効率化に繋がります。

表1 芽かきの実施時期と方法

実施時期		方法
1回目	発芽期～展葉1～2枚	極端に生育が早い芽、弱い芽、副芽などの明らかに不要な芽を取り除く。
2回目	展葉4～5枚	方向の悪い芽などを取り除く。 (最終新梢本数の2割増程度残す)
3回目	新梢誘引時	最終新梢本数にする。

表2 品種ごとの新梢の適正間隔

品種	適正間隔		最終新梢本数 (10aあたり)
	主枝間2m	主枝間1.8m	
ピオーネ オーロラブラック	片側18～20cm	片側19～22cm	5,000～6,000本
シャインマスカット 瀬戸ジャイアンツ	片側22～25cm	片側25～28cm	4,000～4,500本

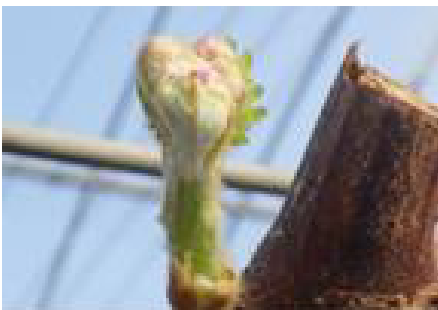


図1 1回目の芽かき時期



図2 2回目の芽かき時期



図3 3回目の芽かき時期

2 摘穂

- ・ 不要な花穂を除去することで貯蔵養分の浪費を防ぐとともに、必要な花穂のみを残すことで、その後の作業性を良くする目的で摘穂を実施します。

【時期】 花穂先端の形が確認でき次第（展葉4～6枚頃）

【方法】 1新梢に2つの花穂がついている場合、花穂先端部が円筒形で充実したものを残し、もう一方の花穂を除去します。

他の新梢に比べ伸長が緩慢で弱い新梢はすべての花穂を除去し、不着果枝（空枝）とします。

【注意点】 着果させた時に極端に主枝に近くなる花穂やトンネルの外側に出てしまう花穂は除去します。

3 誘引

- ・ 棚面に新梢を均一に配置することで、葉の受光体勢をよくする他、新梢の強さごとに誘引時期を変えることで、新梢の勢力を揃える目的で、誘引を実施します。

【時期】 新梢の3～4割が誘引線に十分に届く長さになった頃から順次

【方法】 新梢が誘引線に対し直角になるように引き倒し、テープナー等で固定します。

強い新梢や方向の悪い新梢は基部を軽くねん枝して誘引します。

誘引時に表2の最終新梢本数に調整し、棚面に均等に新梢を配置します。

【注意点】 新梢が欠損しないように、晴天の午後に行うのが望ましいです。

弱い新梢は無理やり誘引せず、しばらく放任し、誘引線に届く長さになってから誘引します。



図4 誘引後の棚面の様子